昭和二十一年～昭和三十年

三宮センター街創立より確立時代

話題をさらった〝おいらん道中〟きつねの嫁入りや福井家具店前で（S.27.10.27）

三宮センター街誕生

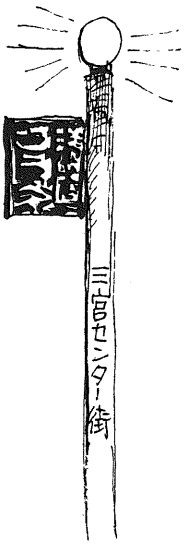
▼昭和21年

三宮センター街は敗戦の焼土の中に芽生えた。昭和二十年三月以降のたび重なる米軍の大空襲によって、神戸は都市の姿を失い、市民は憔悴の極地の中で八月十五日終戦の日を迎えた。

この時、古くから一丁目で商いをしていた人たちによって、いち早く新しいショッピングセンターを作ろうという動きが出はじめ、意欲に燃えた有志たちが日夜相寄り協議を重ねて、漸く二十一年秋に商店会を結成した。

戦前、一丁目のこの通りは三宮本通りと呼ばれ、小売商店も六、七十軒つながり、商盛会という町会もあって、割合い賑やかであったが、二丁目の通りは道幅こそ一丁目と同じ広さ（六㍍）であったけれども、豆腐屋、漬物屋、一杯飲み屋、寿司屋などの小店が、住居の間にある程度の裏通りにすぎなかった。

そういう土壌の上に生まれた商店会は、この通りに何か顧客に親しまれる「愛称」をつけようということになり、明治開港以来、エキゾチックなムードを持っている神戸の、戦後生まれの新しい町にふさわしい「バタ臭いもの」にしようと知恵をしぼり、一丁目でスターという喫茶店をしていた大石氏の発案で命名したのが和洋混合の「三宮センター街」なのである。



いま至る所に「センター街」という名前の街を見かけるが「三宮センター街」こそ元祖である。

創立当時の会員は四十数名、一丁目は可成り家並みも出揃ったけれども、二丁目は終戦時のままの空地が目立ち、焼け落ちた土が盛り上った個所も見受けられ、店舗らしいものは三分の一程度しかなかった。これを五区に分けて役員を決め、初代会長に東中清一氏（当時四十二才）が就任した。

当時は闇市盛んなりし頃で、特に三宮駅高架下周辺は、全国的に名をはせる大型闇市で、その繁盛ぶりは目覚しいものであったが、ここへ隣接して作った「センター街」への客足は一向に振わず、統制経済下にある時代のこととて、正規ルートの商品は品薄で魅力に乏しく、しかもなじみのない通りのために、いつも閑古鳥が鳴いていた。

▼昭和22年

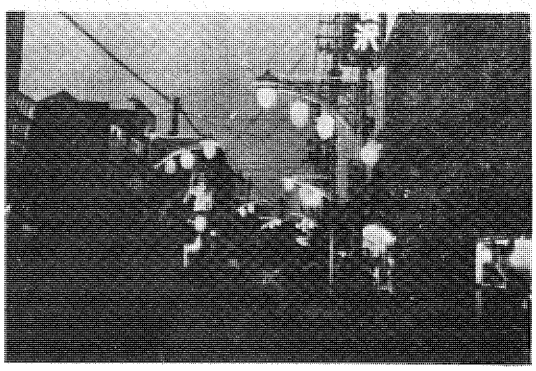
この闇市へ流れる人達をセンター街へ呼ぶ方法はないかと協議の結果、町の店主や主婦らが「さくら」となり、町内を右往左往、客の誘致に専念した。そして二十二年、木の柱の上に電球を一個つけた街路燈を建てて夜間照明を始めた。電柱には三宮センター街のネームを入れ、この柱に各店が木製の看板を掲げてPRに懸命だったが、未だ物資不足の時代のこと、これさえも珍しがられた。松竹映画ではこのアイデアを高く買って撮影に訪れ「復興の街」として上映された。

鈴蘭燈が出来る

▼昭和23年

更に翌年春には、これを鈴蘭燈に替えて華やかさを出そうということになり、当時既に大正筋商店街に立派な鈴蘭燈が出来上っていたので、それを見学に行き、完成までのいきさつなど詳しく説明してもらって、大いに参考にした。

鈴蘭燈は鉄柱にしてセンター街のネームプレートも入れ、一基五万円、各店平均四千四百円ぐらいの負担で三十基を設置、こうして完成した鈴蘭燈は、明るく華やかに街のムードを盛り上げて面目を一新した。



そういう中で、四月十五日には戦後はじめての生田祭りを盛大に奉仕した。生田神社のお祭りは、氏子の町域が広いので十二年目に一度奉仕当番が回ってくるシステムになっており、この年は地元三宮が真心をこめて奉仕し、久しく忘れられていたふるさと祭りの心をとりもどすことが出来た。

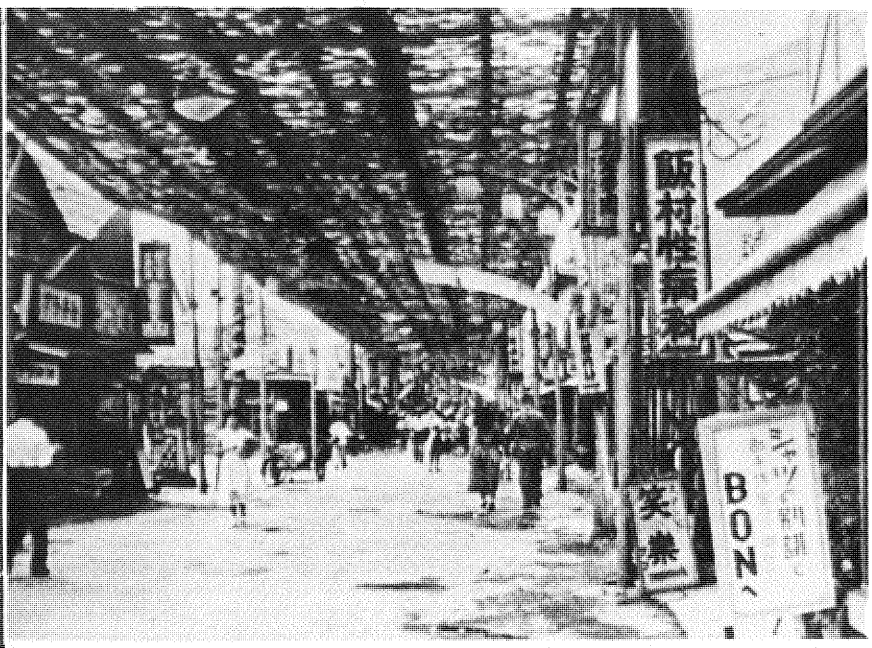
また十一月七、八日には神戸みなとの祭りが盛大に行われ、センター街では娯楽の少なかった市民のために、大洋劇場でのど自慢大会を催し楽しい時を過ごした。

回転アーケードとよし簀の日除け

▼昭和25～26年

会員の努力で人通りも増え、商店も漸増してくるにつれて、町内の運営事務も繁忙となったので、二十五年一、二、三区を一丁目会とし、会長に長沢堅次氏(当時四十二才)が就任。四、五区を二丁目会として上田数平氏（当時四十五才）が会長に就任した。

二丁目会では二十六年十二月、二丁目の東西の入口に一六〇万円（二基）で二段式逆回転ネオンアーチを完成、これがやがてセンター街のシンボルマークの役目をなすようになり、当時マスコミは東洋一のアーチと喧伝した。二十六、七年の夏には道路の上に日除けの「よし簀」を張り、ヘチマを垂らしてお客の人気を呼んだ。二丁目では、間口一間につき五十銭の日掛け貯金を始め、二十五万円程で作ったが、一丁目は日掛けの点で



▲よし簀をはって日除けにした。アーケードの原型。
左上は東洋一とはやされた逆回転するアーチ。
中はおいらん道中で扮装し、けんを競った店主たち。
下は三宮青年会の盛大な盆おどり（S.24.8）

意見が合わず、二丁目より少し遅れて完成した。

このよし簀張りを思いついたのには理由がある。二丁目の田路氏の話によると…

『昭和二十五年ある夏の日、店の前に立って東と西を眺めた。生田筋からトアロードまで歩いている人がなんとたった七人。

理由は国鉄三ノ宮、阪急、阪神で降りた人々は、高架下が涼しいといってここを通り、トアロードを南へ下りて大丸へと買物に行く。センター街は無視された格好で泣くに泣かれぬ口惜しさであった。そこで考えられたのが道路の上に材木を組み立ててその上によし簀を張るというアイデアで、これで大分涼しくなったものの、一雨降れば黒い汁がポツリポツリと落ちて、お客さんの服を汚したり苦情が出てこれは失敗だった』…と。

道路舗装とおいらん道中

▶昭和27年

当時道路は非常に悪く少しばかりの雨にも水溜りができる。センター街も例外ではなかった。舗装をしてくれるように市へかけ合ったが、市は、まだ優先的にやる所がたくさんあるので商店街なんかとんでもないと、全く相手にしてくれないので、更に建設局へも伺ったが同様の返事であった。それでも尚諦めず、当時市会議長であった大崎一郎氏に相談したところ、材料は町費で負担し、労力は公費でまかなうという変則システムで話しが決まり、町会が百二十万円ばかり出資して一月に舗装と側溝が完成、ずいぶん街らしい様子を呈してきた。

十月二十七、八日、誓文払いのアトラクションとして、役員会員扮する全町あげての「おいらん道中」を繰りひろげて人気を呼んだので、センター街が広く世間に認められるきっかけをつくった。

◆おいらん道中顛末

恒例のせいもん払い折からの不景気とあってあの手この手の客寄せの中でひときわ冴えたセンター街のおいらん道中。松竹から衣裳一式六十万円で借り、

高尾（丸福）吉野（喜久屋）揚巻（長沢・写真）の三太夫中心に手古舞衆、新造、かむろなど六十余名がきつねの嫁入りやで支度して二時間余りをシャナリ、シャナリ揚巻太夫は特訓受けて八寸三歯の高下駄の運びを見ごとに演じた。

これで売上げ二千万円はかたいと店主連はニンマリ（当日の新聞）

◀昭和二十六年秋、みなと祭で賑わうセンター街二丁目。丸太屋、中前眼科、エビス、タマガキ等の看板が見える。

アーケード完成・二丁目

▼昭和28年

よし簀を張って日除けにしたが、一時の思いつきでは効果が上がらなかったので、半永久的なアーケードを建設することになった。

二丁目では早速準備をすすめ、当局の許可を仰ぐ。先ず市、続いて県、建設局、消防署、警察署を回り申請書を出したが、全部受付けてもらえなかった。それで再び町内有志で大崎氏に相談をもちかけたが、ここでも即決というわけにいかず保留となった。それから十日後、市から返事があって『高知市でアーケードが建設されていることが判った。市の関係者五名を出張させるから、町からも一緒に行って見学して来たらどうか』とのことで、それから一週間後に市の職員と町内会有志七名は高知市を訪問。高知市へ到着すると役所から出迎えを受け、商工会議所で説明会を開いてもらい、その後アーケードを見学、長所や短所や苦心談も聞き、大きな収獲を収めて帰神した。高知では既に種類の違ったいくつものアーケードが完成していた。

帰神後、市の態度も少しずつやわらぎ、三ヵ月後に許可がおりたので、二丁目では八百万円―一千万円の予算を計上、日掛貯金を始めた。大切な事は施工者探しで、予算に合わせて、しかも堅実な素材を使う有名会社にということで、川崎重工業株式会社に決定。十二月二日盛大な完成祝賀式を行なった。

アーケードはスライド式で使用鋼材五〇トン、アルミニューム一・七トン、高さ六メートル、柱間五～一〇・五五メートル、総長一五三メートル、電気工事は横山電気。総工費は銀行利息、竣工祝賀会費を加えると千六百万円を要し、返済に四年近くを要した。

アーケードに関しては賛否両論があった。センター街だけでなく、各商店街でも問題になったが、センター街の人通りは日毎に多くなっていったし、迷子が出る程になった。各地商店街から見学者が来町するようになり、これで漸くセンター街も世に認められるようになった。

アーケードの竣工記念「年の市大売出し」が二日から二十五日まで一、二丁目で開催、五百円以上お買上げ商品券、千円以上に特別抽選券が渡される。商品は舶来電気洗濯機又は三菱ミシン、いずれかお好みの品五十台。

アーケードの組立て作業と下は三宮神社清水宮司による地鎮祭

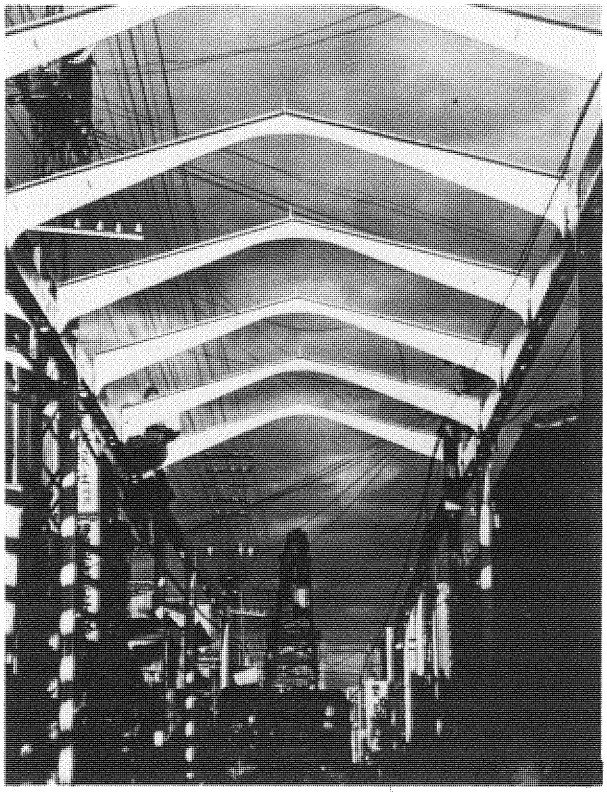
連合会設立・協同組合設立

▼昭和29年

街の様子も大方整ってきたので一、二丁目の連けいを一層密にするために三宮センター街連合会を作り、会長に東條喜三郎氏(当時五十一才)就任、町内諸行事を共催するようになった。

▼三宮センター街協同組合創立

このようにして町の基礎を確立したセンター街では、諸般の事情にかんがみ、相互扶助の精神に基き組合員のために必要な共同事業を行い、自主的な経済活動を促進する目的をもって三宮協同組合を創立した。創立総会は十月十日、設立同意者七十名。十一日申請、十四日岸田幸雄知事認可証七〇〇号。初代理事長東條喜三郎氏。



▶立派に出来上ったアーケードの下で竣工式(二十八年十二月二日)
◀アーケード完成を祝って色刷りで載った連合広告
(十二月一日、神港新聞)

▼昭和30年 1月1日 PR誌「センター」創刊

センター街のPR誌「月刊センター」が東條連合会長らの肝入りで有志によって発刊された。（下）これは全国的に見て商店PR誌の先駆をなすもので、同年月に創刊されたものに「銀座百点」がある。

▼3月20日～4月10日

春の大売出し「お好み温泉一泊旅行」百三十人招待

白浜、芦原、城崎の三温泉いずれでもご招待というのが当り当選組番号も当初の予定百人分が百三十人分とはね上る好成績だった。抽選の結果、九十二番が温泉招待、前後賞九十一、九十三番(湯上りタオル贈呈)二百六十人が決定した。

温泉行は六月二十日までならいつでも三宮駅内日本旅行会三宮営業所でクーポン券と引換えられる。この企画は前回一等キャノン・カメラ賞より、より多くの人に喜んでもらおうという気持がアッピールした最近のヒット版だといわれている。

▼5月8日 婦人部誕生

商店街には珍らしい婦人部を、八日の「母の日」を記念して結成した。会員家庭の主婦、女性従業員など百七十名を集め、親睦と社会勉強に努めるのが目的。

▼6月23日 二丁目の総会

梅雨時に珍らしい快晴、深緑におおわれた有馬街道を全但貸切バスが四十七名の会員を泉郷有馬へ運ぶ。兵衛紅葉谷別館での総会は定刻の五時に開会、大内会長を始め全員浴衣姿もなごやかに議案もすらすら承認可決された。商店街会費改正の件もの び行くセンター街発展のため、一同協力支持の意を表し可決。

またセンター街発展策並に親睦に関する懇談会はセンター会館を高度に利用し店主の研究会、店員の補習教育など会員より建設的な意見も続出、七時から宴会に移った。

▽お買物はセンター街で 扇港随一 金鳥蚊取線香

▽好いて好かれた仲ぢゃもの

ちょっとやそっとで離れません セメダイン

恒例の福引の名文句に拍手。有馬の美妓長唄〝都島〟演芸部のリードでのど自慢や飛入り演芸に歓を尽した。

▼6月25日 「センター会館教養講座」

夜七時からナショナル金銭登録器KK主催で「映画と講演の会」が開かれ店員の教養向上に大きな成果をあげた。

「教養講座」が七月一日夜英語C組からはじまり、一般聴講者を交えた勉強家、老若男女三十名が関大平山政市先生の手ほどきで〝グッド・イヴニング〟と和気あいあい、各科目とも超満員の盛況で〝お断り〟に一苦労だった。

▼7月24日 会と催し

センター会館では九時半から、関大平山政市先生の「正常販売高予測法」の講習会を開く。聴講無料、テキスト一五〇円。

▼7月10日～8月15日

川柳と絵入りあんどんで中元大売出し

全商店街をあげて盛大に行う期間中の呼び物は、各店毎に川柳と絵入り〝あんどん〟を軒並みぶら下げセンター街を花やかで大きな〝あんどん廊下〟と化し夕涼みがてらの顧客に涼感を楽しんでもらう趣向。

川柳はふわうすと川柳社同人から募集したところ婦人を交えての四百五十句の秀作が集まり、選出に街のお歴々が数日間、徹夜する騒ぎだった。また軒毎に発表された入選作の中から優秀作を一般の投票で決定し、入選者には賞品を贈るが、さらに一位投票者のうちから五十名を抽選で決定、賞品を贈呈する。なおこの期間中スマートなマッチをセンブラ・マンに上げることになっている。あんどんの作者はイワタ・タケオ、鴨居玲、岡村、山下、大久保の諸氏。

▼8月　**川柳人気投票発表**

投票総数三千六百十八票と、審査の結果、一位から十位までの入選句が決定、また第一位(一五四番)に投票された方、三百九十五名のうち五十名(抽選)に、それぞれ入選賞を贈呈した。

入選句次の通り（カッコ内はあんどん番号）

1位（一五四）センター街越路吹雪とすれちがい　頑　子

2位（四八）　窓明けて白一色の事務に居る　いづる

3位（一一八）珠暖簾静かに酔うた肱枕　鬼　堂

4位（一八六）ボーナスの日をセンター街二度三度　比呂詩

5位（一九七）気持よいお世辞背にして店を出る　いづる

6位（八一）　買う人も満足がありセンター街　弘　昌

7位（一〇九）涼しげな眼が蝶タイの柄を選り　泉　三

8位（六八）　倖せな二人へ映えるアーケード　三　昭

9位（五八）　センター街明日への糧に歩くなり　好啓児

10位（一七〇）恋人に着せたい柄に立ち止まり　三　昭

▼11月20日～12月25日

センター街恒例の　歳の市大売出しとxマス・セール

連合会恒例の年末の催しを次のような豪華版で行う。

十一月二十日―十二月五日　歳の市大売出し

十二月六日―十二月二十五日　クリスマス・セール

◎**お楽しみラッキー・カード**

。買上げ千円ごとに一枚進呈（百円ごとに補助券進呈）

◎お好み温泉へアベックで招待（ラッキー・カード二十枚を一口として抽せんにてアベック一組ご招待）

芦原温泉と東尋坊温泉――お宿泊つるや旅館

白浜温泉と泉都めぐり――お宿泊桃の井旅館

城崎温泉と日和山遊覧――お宿泊西村屋旅館

三月末日迄におすきなときに、お好みの温泉へ

◎またはエンパイヤ・ポータブルラジオ(電池、電灯線兼用)

壱台　◎**当せん発表　十二月二十五日**